



日経平均株価やTOPIX(東証株価指数)に連動するインデックスファンドは、新NISAでも引き続き注目を集めています。一方で、最近ではベンチマークを上回る投資成果を目指す「日本株のアクティブラボ」に関するお問い合わせをいただくこともあります。

そこで今回は、「金利のある世界」において注目される  
**日本株のアクティブラボ**についてお伝えしたいと思います。

日本株のアクティブラボについて考えてみましょう。



## 「金利のある世界」が新常態(ニューノーマル)に

日本銀行は2025年12月18・19日に開催した金融政策決定会合で、政策金利(無担保コール翌日物金利の誘導目標)を0.25%引き上げ、0.75%程度とすることを決定しました。政策金利が0.5%を超えるのは1995年以来、約30年ぶりです。さらに、日本の10年国債の利回りは2%に到達する水準にまで上昇しています。こうした中、日本株は金利上昇局面でも底堅く推移しています。この背景には、日本経済がデフレから脱却し、インフレが定着しつつあるとの見方があるようです。インフレが定着すれば企業の売上高が拡大し、利益を上げやすくなるためです。

日本の政策金利と10年国債利回りの推移



日経平均株価推移



※信頼できると判断したデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成

※各指標の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指標の算出元または公表元に帰属します。

※政策金利:無担保コール翌日物金利(ただし、マイナス時は日銀当座預金(一部)への付利の水準)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧説資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

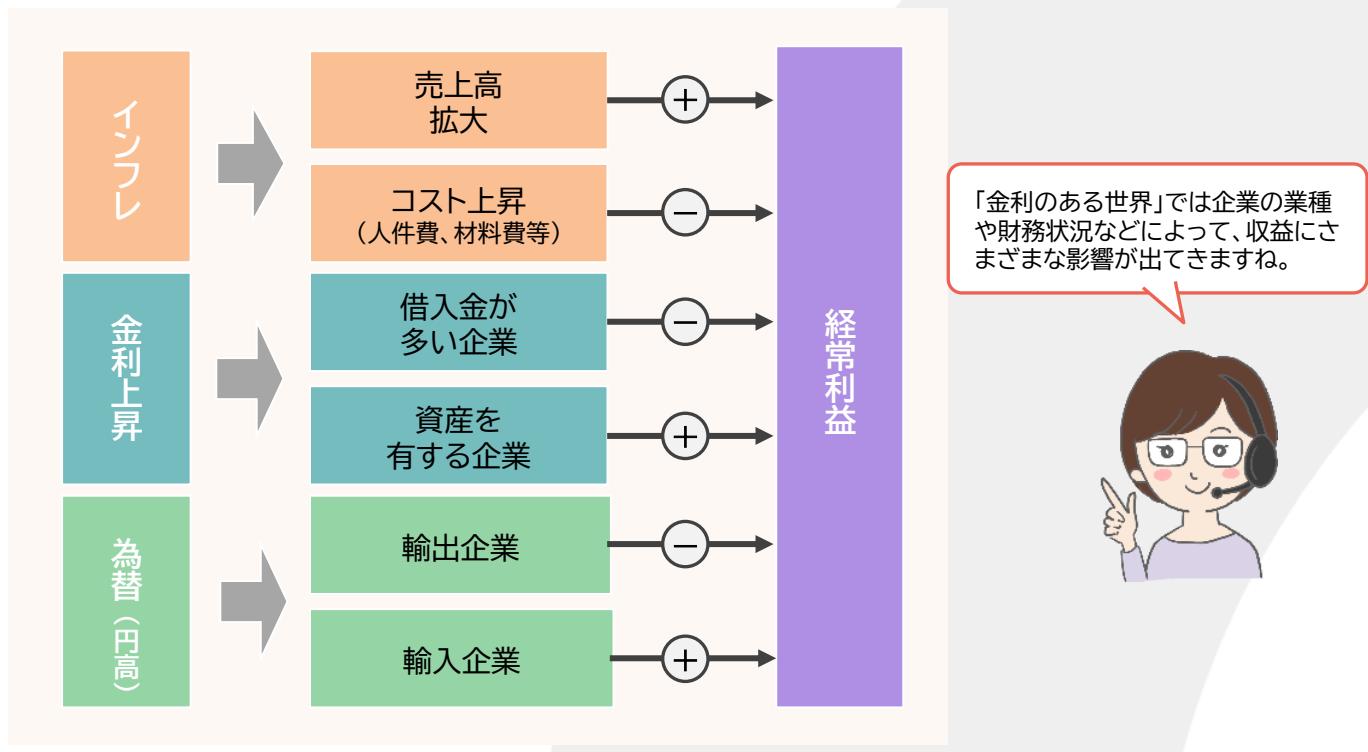
## 「金利のある世界」で企業の競争力の差がより顕著になる可能性が

一方で、金利上昇は企業の事業環境にさまざまな影響を与えます。負債の多い企業は借入コストの上昇により、収益が圧迫される可能性がありますが、資産を保有する企業は有価証券などの受取利息が増え、収益拡大につながります。

さらに、為替市場では、金利上昇による日米金利差の縮小を背景に円高が進む可能性があります。一般的に円高は輸出企業にとっては不利ですが、輸入企業にとっては有利に働きます。例えば、自動車や電子機器メーカーなどの輸出企業は、円高によって価格競争力が低下し、売上や利益が減少する可能性があります。一方、原材料や製品を海外から輸入している企業は、円高によって輸入コストが下がる等の理由で、利益が増加することがあります。

このように、「金利のない世界」に比べて「金利のある世界」では企業の財務の健全性や競争力の差がより顕著になることがあります。こうした環境下では、金利上昇局面でも成長できる企業を見極めることが、投資判断において重要になります。

### ■「金利のある世界」で企業が受ける影響



※上記は一例です。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

## 「金利のある世界」における日本株アクティーブファンドの重要性

投資を行なう際には、こうした環境の変化を理解したうえで企業を選別したいところですが、個人投資家がそれを実践するのは容易ではありません。そこで活用したいのが投資信託です。

アクティーブファンドはインデックスファンドと比較してコストが高くなる傾向がありますが、これは市場分析や銘柄調査等に費用等がかかるためなんですね。

投資信託の組入銘柄の特徴として、インデックスファンドは市場の平均的な動きを捉るために幅広い銘柄を対象としており、指数と同様の構成となっています。一方、アクティーブファンドは市場分析や銘柄調査により優良な企業を厳選して投資を行なうといった特徴があります。

現在、日本では「インフレ」と「金利のある世界」の2つの構造変化が同時進行しており、こうした環境下において、運用担当者の「目利き力」を活かした日本株のアクティーブファンドが資産運用の一つの選択肢として魅力的だと考えられます。

ただし、一口にアクティーブファンドと言ってもさまざまなタイプがあります。ファンドの投資目的や特徴は目論見書に記載されていますので、ファンドを選ぶ際の参考にしてみてください。アモーヴァ・アセットマネジメントでは、さまざまなタイプの日本株アクティーブファンドを運用しています。弊社のホームページから是非チェックしてみてください。



コールセンター  
**0120-25-1404**  
 営業時間 平日 9:00-17:00



アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。